

食料支援ぎりぎり 減る企業の寄付

フードバンクの今

生活が苦しく食べものを十分に買えない人たちに食料を届けるフードバンク。コロナ禍以降、必要とする人に支援が追いつかなくなっています。28日は「フードバンクの日」。何が起きているのか聞きました。(大村善喜 写真提供)

コロナ禍以降増える生活困窮者

「網羅が広がっています。神奈川県平塚市にある認定NPO法人「フードバンク湘南」の大副めぐみ理事長(68)は最近の活動状況を話す。

平塚市内を中心に、ひとり親家庭や支援を必要とする人に米や野菜、レトルト食品などの食料を届けている。コロナ禍で生活に困る人が増え、2020年度から食料を取りにきてもらう「フードパントリー」も開催。当初は1回100人程度に配っていたが300人近くに増え、予約制に切り替えた。

物価高追い打ち

しかし食料の寄付は減っている。企業3社から定期的な寄付を受けているが、「なかなか増えない」と大副さん。個人からの寄付が頼りだが、物価が上がり始めた昨年来、目立って減少。1回に3割減していた米の量を、半分には減らざるを得ない時もあった。

12月は、冬休みの期間に合わせ、通常より多めに食料を配布する「フード応援プロジェクト」を企画しているが、食料がなかなか集まらない。特に子どもが楽しみにするお菓子が少ないという。

大副さん含め、ボランティアは無償で活動しているが事務所の家賃など月々の経費がかかる。それら活動資金をまかなう寄付も目減りしている。

認定NPO法人「セカンドハーベスト名古屋」(2HN)によると、企業1社あたりの食品寄付は以前から減少傾向にあったという。

毎年の5000前後の食品を集めているが、18年に寄付を受けた企業は100社に満たなかったのに対し、22年は297社に。少量ずつ、より多くの企業から集めたことになる。それが、昨年6月ごろから寄付の減少はより顕著になった。

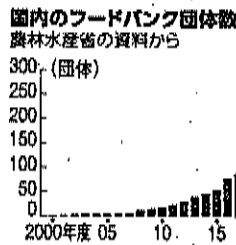
22年は企業30社を訪問するなど協力依頼に力を入れた。その結果、前年とはほぼ変わらない量を確保した。だが、今年はいさらに激しく、年間で寄付量が1割減りそうだ。理事は「協力してくれる企業を増やしていく必要がある」と話す。

2HNでは最近、個人からの寄付に力を入れている。家庭で余っている食品を職場や学校などに持ち寄ってもらう「フードドライブ」は、約1000団体が実施。中日ドラゴンズや名古屋グランパスの試合日に会場でフードドライブを開いたこともあったという。

多くの参加願う 社会貢献活動として社員が職業上のスキルなどを生かし、参加するプログラム「ソーシャルアクションアカデミー」(NPO法人サービスタラント主催)が行ったフードバンクの実態調査では、22年の1年間で支援の総量が増加したと答えたのは85団体中65団体(77%)だった。そのうち約3割が寄付が減少したと答えた。



東京都港区赤坂にある「フードバンク東京」の倉庫。ボランティアたちが11月、全国で「フードバンクの日」を記念して、準備した食料を優先的に届けた。準備する「セカンドハーベスト名古屋」のボランティアたちが11月、全国で「フードバンクの日」を記念して、準備した食料を優先的に届けた。



22年度に支援したのはのべ4352件、1万3056人。前年度より約2千件増え、対象者は倍増した。

22年度に支援したのはのべ4352件、1万3056人。前年度より約2千件増え、対象者は倍増した。

22年度に支援したのはのべ4352件、1万3056人。前年度より約2千件増え、対象者は倍増した。

22年度に支援したのはのべ4352件、1万3056人。前年度より約2千件増え、対象者は倍増した。

22年度に支援したのはのべ4352件、1万3056人。前年度より約2千件増え、対象者は倍増した。

フードバンクと食品ロス

寄付してもらった食品を福祉施設や生活困窮者に無料で届ける活動。1960年代に米国で誕生し日本では2000年代に始まった。農林水産省によると現在、全国に252団体あり、コロナ禍以降、急増している。フードバンクで取り扱う食品量は年間約7千トンと推計されている。一方、食べられるのに捨てられる「食品ロス」の21年度の推計値は、事業系と家庭系を合わせて523万トン。

協力したいときは

給食がない冬休みや夏休みは、子どもがいる困窮家庭にとって一層つらい時期になる。夏休みにフードバンクで米や乾麺、お菓子などの支援を受けた、子ども4人を育てているひとり親の40代の女性は「一日中、食事のことが心配。食べ物はすぐになくなるのでありがたい」と話していた。

全国フードバンク推進協議会では加盟団体と協力し12月と1月に集中的に子どもがいる困窮世帯約4万世帯へ食料を届ける予定だ。

フードバンクに食品やお金を寄付したい場合は、近くの団体に相談しよう。全国フードバンク推進協議会(<https://www.fb-kyougikai.net/>)や日本フードバンク連盟(<https://foodbanking.or.jp/>)のホームページに加盟団体の一覧が掲載されている。

「フードバンク側としては、寄付してくれる企業数を増やしていくしかない」という。米山代表理事は、「潜在的に寄付できる食品がなくなっているわけではない」として、多くの企業に食品寄付に参加してもらいたいと願う。

「潜在的に寄付できる食品がなくなっているわけではない」として、多くの企業に食品寄付に参加してもらいたいと願う。

「潜在的に寄付できる食品がなくなっているわけではない」として、多くの企業に食品寄付に参加してもらいたいと願う。